

▲▲▲ 梅雨の噴れ間だ、それ行けルート ▲▲▲

～北信二岳「湯の丸高原・烏帽子岳」 & 「戸隠高原・飯縄山」～

◎山行期日：2019年6月25日～26日 ◎パーティー：アカ（L）、ニシ、フル、オー（報告） 4名

毎年この時期にアカさんのお世話で出掛けているルート4人組、今回は、今年3月初旬にスノーシューで出かけたはよいが、耐用年数を遥かに超えたオンボロ除雪車では前の晩に新たに積もった重い新雪のラッセルにエンジンが言うことを聞かず、道半ばで逃げ帰った湯の丸高原・烏帽子岳のリベンジと、翌日は滅多に行くチャンスがない信越国境・戸隠高原の奥山の飯縄山が選ばれた。

アカさんは年々下がる我々ルート4の体力の減少に苦慮し、今回は傘寿2人、喜寿2人という年齢構成のために、コース難易度、獲得標高、歩行距離とも小学生の林間学校集団登山並みのコースを選んでくれたので、“それ行け、ルンルン”とはいかなかったが、マ、何とか頂上を踏んで下山できたことは有り難いことであった。



【湯の丸高原・烏帽子岳】

6月25日 晴

リーダーの車に佐久平駅でピックアップして貰って湯の丸高原・地蔵峠の駐車場に着いてビックリ。なんと広い駐車場が満杯になっていて、車を入れる隙も無いではないか。おまけに観光バスも停まっていた。今頃山開きというのもおかしいし、平日なのでイベントも有る筈がない。よく見ると、スキー場のリフトが動いていて、皆さんそれに乗っていた。スキー場の上にあるレンゲツツジの群落がお目当てらしい。なるほど、我々が歩いたコースもレンゲツツジが満開で、深紅の花が周りの深緑に映えて彩りを添えていた。

今回のルートは、地蔵峠を少し登った所のキャンプ場から左手に廻り込んで湿原に入った。少し廻り道にはなるが、湿原に苔とカラマツの落ち葉が積もったフカフカのプロムナード絨毯道で、他の登山者には誰にも会わない奥座敷の桃源郷だった。移動式テーブルと簡易イスとビールでもあれば、これはもう山上の楽園の清談亭……。ハクサンチドリも咲いていた(⇒)。

湿原が終わると、湯の丸山(標高 2101m)の中腹を緩やかにトラバースする山道になった。やがて、笹生えの峠に登り着いた所が湯の丸山と烏帽子岳のコル。ズミの大木から山桜を小さくしたような白い花の花吹雪が降り注ぎ、その下にはベンチも置かれていて花の絨毯のお花見スポットとなっていた。今年の3月にはここから見上げた烏帽子岳稜線へのキツそうな雪の斜面にその気が萎えて、タイムアウトという理屈を付けてここから逃げ帰ったのだった。



最長老の智姐サン(ニシさん)は病み上がりをもものともせず、快調なピッチを見せて喜寿組の尻を叩く元気さ。元気な先輩には叶いませヌ。湯の丸山と烏帽子岳のコルからゴロタ石の転がっている狭いトレランチをウンウン言いながら登ると稜線に飛び出した。ここが小烏帽子岳で、烏帽子岳本峰は短い吊尾根

を登った直ぐ先だった。

烏帽子岳は浅間山系の西端に位置しているため、足下には千曲川の河岸段丘やのびやかな上田盆地が広がっていた。その遙か先には北アルプスの槍穂、また北側に目を転ずれば明日登る予定の信越国境の飯縄山やその先の妙高山が浮かんでいる筈であるが、生憎梅雨の中休みの真夏の入道雲に隠れて見えなかった。

烏帽子岳から小烏帽子岳への吊尾根の岩陰に珍しいシロバナコマクサが咲いていた。痩せたザレ場にたった一株だけで頑張って咲いている姿には白い貴婦人の気品があった。

本日のコースの標高差 340m、歩行距離 9km、標準コースタイム 4 時間。我々は休憩時間も含めて 5 時間 10 分だったから、ロートルにはマアママのタイムか？

地蔵峠から上田盆地に下り、千曲川河畔の戸倉温泉に投宿。立派な温泉宿で足を伸ばし、呑み放題・食べ放題バイキングで大満足（「リバーサイド上田館」）。



(烏帽子岳とレンゲツツジ)



(←小烏帽子岳山頂。足下は上田盆地)

(↓シロバナコマクサ)



[記録]

地蔵峠発 10:15⇒烏帽子岳・湯の丸山コル 10:50⇒小烏帽子岳 12:35~13:00⇒烏帽子岳 13:35⇒地蔵峠着 15:25

[戸隠高原・飯縄山]

6月26日 晴

早朝午前4時、千曲川のせせらぎの音で目覚めた。ホテル7階の部屋から外を見下すと、広い川面の

せせらぎに朝の陽光が踊り、空には一点の雲も無い。今日もまた梅雨中休みの真夏空。この4人組、相当に行いが良いらしい。或いは昨日の地蔵峠の地蔵菩薩に相当のお布施を弾んだか？

戸倉温泉から長野自動車道に乗って戸隠高原に向かい、信越国境の大社である戸隠神社を横目で拝みながら戸隠バードラインの気持ち良いカラマツの樹林を抜けると飯縄登山口に着いた。

飯縄山(1917m)は、妙高山、斑尾山、黒姫山、戸隠山と並んで北信五岳と呼ばれ、長野盆地の何処からでも大きく望める地元の名山だそう。この辺りは役ノ行者が開いた山岳修験の道場で、中でも飯縄山は飯縄大権現を祀る飯縄修験道の聖地となった。この飯縄修験道は、「飯縄法」という妖術を編み出し、例の陰陽師・安倍晴明が使役したという式神は、この飯縄山に住んでいた管狐と呼ばれる鼠ほどの小動物（実はオコジョ）を飼い慣らしたものだそう。安倍晴明はこのオコジョを長さ四、五寸の管に入れて常に懐中で養い、この小動物の霊力を用いて術を行ったという。これを管狐というが、この管狐は著しい霊力を持ち、出没変幻自在、その予言能力は外れることが無かった。

この安倍晴明とオコジョの式神をネタにして今の世で大儲けしているのが大法螺作家・夢枕獏であることは皆さんご承知の通り。

余談を重ねて恐縮であるが、高尾山・薬王院はこの「飯縄大権現」を勧請し本尊としているのであるから、飯縄山は相当な格式であろう。

(飯縄大権現、天狗のお姿。乗っている動物は眷属の狐⇒)

小生はこのような大法螺話が大好きであるので、些か道草が過ぎた。話を本題に戻そう。

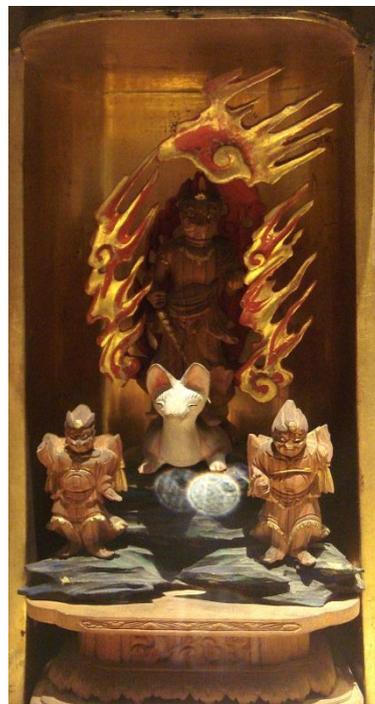
飯縄山の登山路は方向別に3本あるが、今回はその中でもコースタイムが最も短い南登山道が選ばれた。一の鳥居園地という登山口から少し別荘地に入った飯縄神社社地の入り口に鳥居と狛犬が建っている小さな空き地があり、そこが知る人ぞ知る登山者の駐車場なのであるが、既に地元車で満杯。藪になんとか車を突っ込んで出発。暫くは緩やかな樹林帯の気持ち良い山道が続く。しきりに鶯が鳴き、何かの虫の蟬しぐれが降ってくる。アカさんによればエゾハルゼミだそう。

このコース沿いには登山口から山頂までに13体の石仏が順次祀られていてその横には標高の標識も立てられているので、登るのに気合が入る(⇒)。これらの石仏は昔からの修験道の名残であろう。

第1番が不動明王(山岳修験の親分)、第2番以降は阿弥陀如来などの如来が5体、文殊菩薩などの菩薩が7体となっていた。身体の悪い部位を撫でると御利益があるそうなので、小生は文殊菩薩の頭を撫でてみたが、もはや遅しで験も無かった。

この飯縄山は人気が高いらしく、沢山の人が登っていた。我がパーティーは自慢ではないが全てのパーティーに道を譲ったが、追い抜いた人は一人もいなかった。

途中の水場で霊水を補給、森林限界を超えると一気に展望が開けた。圧巻はお隣・戸隠山のギザギザ山稜の遙か向うに見えた白馬連峰で、全貌は入道雲に隠れて見えなかったが時折雲の切れ目から大雪渓



が望見できた。南峰に建っている飯縄神社奥宮からは、東側には足下の千曲川の流れを挟んで岩菅、横手、白根などの志賀高原方面の山々が霞み、南側に眼を転ずれば昨日登って来た湯の丸高原・烏帽子岳が上田盆地の上に浮かんでいた。



(飯縄山南峰。左は小祠と石仏)



(飯縄山南峰に建っている飯縄神社奥宮。中には、御神体の鏡と眷属の天狗の面が祀られていた)

今日の飯縄山でも、昨日の烏帽子岳でも、小学校の林間学校集団登山と遇った。数十人の児童はキャアキャアと楽しそうだったが、引率している先生方は大変だろう。登山道は険しくはないといっても、大岩がゴロゴロしている急傾斜なので、児童が走り廻って転んだりすると擦り傷では済まないであろう。

生徒の安全確保第一という大義名分で野外活動などが敬遠されているらしいが、教室という無菌室で培養された頭脳偏重の秀才ばかりが増えても何の足しにもならないのは今の世相の示すとうりである。山岳部やワンダーフォーゲル部出身の先生方が率先して野外授業を拓げられることを望みたい。

本日はロートルには結構キツかった。急ぐ旅でもないのでエゾハルゼミの蝉しぐれを聴きながらトボトボと只々脚を前に出す動作だけで登山口まで戻ったが、その結果、車を転がせて我々を長野駅まで送ってくれたリーダーは高速道路の夕方の渋滞に巻き込まれたであろうから、気の毒なことをしたものだ。

本日のコースの標高差 750m、歩行距離 8km、標準コースタイム 4 時間。我々は 6 時間強掛った。リーダーのアカさんによれば次回からは標高差 400m 以内、歩行時間 4 時間以内の山を探すとのこと。いよいよ大阪港の「天保山」(標高 4.5m、日本一低い山) にでも追いやられるのか?、嗚呼。

そういえば、ここ上田盆地には冠着山という姥捨山もあり、また近くには名刹善光寺もあるので、こちらに行く方が何かと手っ取り早いかもしれないナ。

[記録]

飯縄大明神登山口 9:40 出発⇒10:55 駒つなぎ場⇒12:50 飯縄神社奥宮 13:35 出発⇒14:40 駒つなぎ場⇒15:50 登山口

(本項の写真：アカさん撮影)

(本項 了)